

学位授与番号：乙 3 1 7 7 号

氏 名：長谷川 雄一

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 29 年 2 月 22 日

学位論文名：

上部尿路上皮癌におけるプラキンファミリー蛋白発現の検討

学位審査委員長：教授 相羽恵介

学位審査委員：教授 吉田清嗣 教授 岡本愛光

# 論 文 要 旨

論文提出者名	長谷川 雄一	指導教授名	穎川 晋 教授
--------	--------	-------	---------

## 主 論 文 題 名

上部尿路上皮癌におけるプラキファミリー蛋白発現の検討

長谷川雄一、鎌田裕子、萬昂士、鷹橋浩幸、木村高弘、車英俊、

田畑龍治、下村達也、山田裕紀、佐々木裕、穎川晋

日本泌尿器科学会雑誌 2017年 108巻2号 掲載予定

(目的) 本研究は上部尿路癌におけるペリプラキンおよび他のプラキファミリー蛋白の発現変化を検討し、臨床病理学的因子との関係を解明することを目的とした。

(対象と方法) 2000年4月から2005年12月に、東京慈恵会医科大学泌尿器科にて手術を受けた上部尿路上皮癌(腎盂癌および尿管癌)患者57名を対象とした。癌部および非癌部におけるペリプラキン、エンボプラキン、プレクチン、デスマプラキンの発現を免疫組織染色にて解析し、臨床像と比較検討した。

(結果) 上部尿路癌組織におけるペリプラキン発現は、正常尿路上皮に比べ、強陽性を示す割合は有意に低下していた( $P < 0.0001$ )。またエンボプラキンおよびデスマプラキンの発現も、強陽性を示す割合は癌部で有意に低下していた(それぞれ $P < 0.0001$ )。 Kaplan-Meier法およびログランク検定を用いた検討では、ペリプラキンとエンボプラキンの発現は予後と有意な相関を認めなかったが、デスマプラキンの強発現は癌特異生存率および全生存率が有意に低く( $P = 0.023$  および  $0.034$ )、プレクチンの強発現は非転移生存率が有意に低かった( $P = 0.034$ )。

(結論) 上部尿路上皮癌において、プラキファミリー、特にデスマプラキンは予後予測マーカーとなる可能性が示唆された。